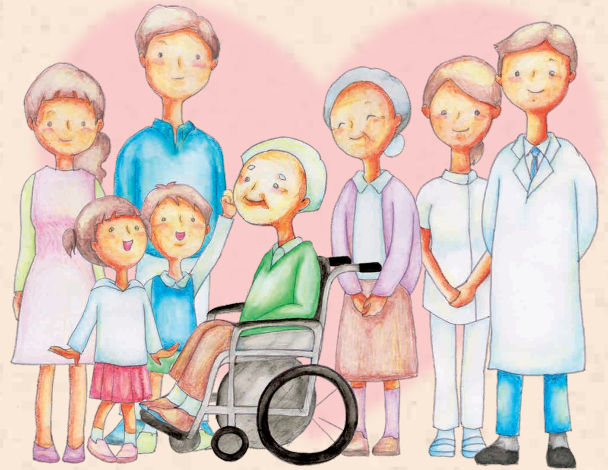


社会福祉の 「監視化」を問う

罪を犯した人たちの中に、高齢者や障がい者など社会福祉の対象になる人たちが少なくないことは、よく知られるようになってきました。刑事施設を出所したあと、再び罪を犯すことなく地域の中で暮らし続けることができるようにするため、司法と福祉の連携が謳われるようになっています。しかし、こうした動きは、一步間違えると、社会福祉が取り締まりや監視といったシステムの中に組み込まれる危険性も孕んでいます。

こうした動きは、司法福祉の分野に限ったことではありません。児童虐待への介入、福祉事務所への警察官OBの配置、精神保健医療福祉などの場面でも、共通する懸念が指摘されています。

本シンポジウムでは、再犯防止の政策動向を切り口に社会福祉の「監視化」の動きを問い直し、この中で社会福祉が守るべきものは何かを議論します。



2019年

日時

4月20日(土) 13:00~16:30
(12:30 受付開始)

どなたでもご参加いただけます
参加費
無料

会場

愛知県産業労働センター
ウインクあいち 10階 1003 中会議室
名古屋市中村区名駅4丁目4-38 (「名古屋」駅徒歩5分)

要約筆記・手話通訳が必要な方は
3月10日までに下記問合せ先
までご連絡ください

記念講演

再犯防止とソーシャルワーク

講師

鈴鹿医療科学大学教授・日本司法福祉学会長

藤原 正範氏

●パネルディスカッション●

【パネリスト】

児童虐待防止の視点から 井上薫氏 (同朋大学教授)
福祉事務所の視点から 桜井啓太氏 (名古屋市立大学准教授)
精神保健医療福祉の視点から 樋澤吉彦氏 (名古屋市立大学准教授)

【コメンテーター】

伊藤文人氏 (日本福祉大学准教授)

【コーディネーター】

湯原悦子氏 (日本福祉大学教授)

主催 / 日本社会福祉学会中部地域ブロック部会

問合せ先

日本社会福祉学会中部地域ブロック部会担当理事・山田壮志郎(日本福祉大学社会福祉学部)
〒470-3295 愛知県知多郡美浜町奥田 E-mail : y-sosiro@n-fukushi.ac.jp